

3才児検診からの肥満予防 システムの検討

(分担研究：小児肥満予防対策に関する研究)

大関武彦、花木啓一、白木和夫
中島匡博*、奥田嘉員*

要約： 小児期の単純性肥満において、体重増加はしばしば幼児期より開始することが経験される。3才児検診の機会に介入を開始することが試みられて来たが、未だその効果については、議論の余地がある。我々は今回の研究で、島根県西部地区における3才児検診の後に、肥満・健康教室を開催するシステムを確立した。この特徴は、肥満小児および非肥満小児を含め、広い範囲の参加者を対象にしていること、経過の観察に家庭医の協力を求めた点などであり、今後の長期的観察を目標としている。

見出し語： 肥満、3才児検診、肥満度、カウプ指数

島根県益田市および美都郡において3才児検診からの肥満予防を目的として、以下のシステムを確立し、肥満である児、そのおそれのある児、およびそれ以外の児も含め、指導および経過観察を行う。

肥満の治療は出来るだけ早期に開始し、可能であれば予防を目指すことが望ましい。しかしながら、その判定、選別法もさることながら、その介入法に関しても、未だ効果的な方法は確立したとはいえない。その原因の一つとして、肥満に対する取り組みが家族のみならず、医師を初めとする医療関係者においても、必ずしも正しく認識されているとは言い難いこともあげられよう。

鳥取大学医学部小児科、 *益田地域医療センター医師会病院小児科

Department of Pediatrics, Faculty of Medicine, Tottori University;

*Masuda Medical Center - Medical Association Hospital

本研究班での3才児検診や、保育園、幼稚園などの入学前の児に対する介入の試みは、現時点において有力なものの一つであろう。今回我々は、3才児検診の場を足がかりとした肥満の予防、治療のシステムを検討したので報告する。

[対象・方法]

島根県益田市およびその周辺地域の3才児検診受診者を対象として、図の方法で行う。対象者の概数は年500名である。

肥満度15%ないしカウプ指数18を基準として、過体重者のスクリーニングを行い、啓蒙用のパンフレットを配布する。

次いでこれら肥満者を含めた検診受診者全員の中の希望者に対し、肥満教室を開催し、医師および栄養士を含めたスタッフで指導を行う。

事後のフォローアップに関しては、各自のかかりつけ医師との連絡を密にして行う。6か月後には、それらのかかりつけ医により、体重、検査結果を含む調査表の記入を依頼すると共に、その後の推移を調査する。

[考察]

肥満の予防を早期から行うことは、非常に有効なものと考えられるが、必ずしも現在十分な対応がなされているとは言い難い。乳児の過体重が、年長児の異常とは必ずしも結びつかない点や、不適切な肥満治療の危険性などから、医療関係者等における考え方も、満足出来るものでない場合もある。肥満小児のみを取り上げて対応することの問題点も指摘されている。

3才児検診は原則として、すべての児が受診することより、スクリーニング開始としては良い機会となりうるであろう。実際に行う際の問題点としては、保健所等のキャパシティー、その後のフォロー体制などがあげられよう。

我々が今回確立したシステムでは、検診と別個の時間に肥満教室を行い、キャパシティーの問題を解決した。また、home doctor の協力を得ることにより、その後の経過の確認と指導の徹底が期待される。

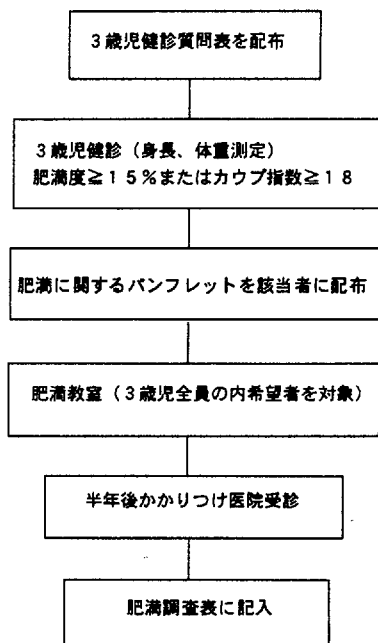
[まとめ]

3才児検診に連動した肥満の予防・治療システムを確立した。肥満小児のみならずより広い参加者を対象とした点、かかりつけ医の協力によりフ

ォローアップを十分に行うことを目指した点などが特徴的である。

☒ 1

3歳児健診での肥満チェック（島根県益田市）



但し、肥満度 2.5% 以上またはカウプ指数 2.0 以上は早めに小児科受診

☒ 2

3歳児肥満調査表

該当する箇所に御記入または○印を付けて下さい。

() 病医院 担当医 () 先生

受診日：平成()年()月()日
 児の氏名() 性別(男、女)
 生年月日：平成()年()月()日
 身長()cm 体重()kg
 血圧(/)mmHg
 家族歴：(肥満、高血圧、糖尿病、心筋梗塞、高脂血症、脳卒中)
 血液検査：
 総コレステロール()mg/dl
 中性脂肪()mg/dl
 トリグリセライド()mg/dl
 血糖()mg/dl
 GOT()U
 GPT()U
 その他の検査がありましたら御記入下さい。

食事・運動・生活指導をしましたか。(はい、いいえ)
 「はい」と答えた方は具体的な指導内容を御記入下さい。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:小児期の単純性肥満において、体重増加はしばしば幼児期より開始することが経験される。3才児検診の機会に介入を開始することが試みられて来たが、未だその効果については、議論の余地がある。我々は今回の研究で、島根県西部地区における3才児検診の後に、肥満・健康教室を開催するシステムを確立した。この特徴は、肥満小児および非肥満小児を含め、広い範囲の参加者を対象にしていること、経過の観察に家庭医の協力を求めた点などであり、今後の長期的観察を目標としている。